国際交流員が紹介する
「一、二、三楽しい中国文化」
四大名作③

500年前に書かれた英雄伝：『水滸伝』

①

『水滸伝』は、中国の明の時代（日本の室町時代と同時期）に書かれた長編小説です。著者は、施耐庵（したいあん）だと言われています。北宋末期（日本の平安時代後半と同時期）に、宋江ら実在する36人の豪傑が山東省の梁山泊に集結し起こした反乱を題材に創作されました。

本書は、中国及び東アジアの社会や文学に大きな影響を及ぼしました。日本では、江戸時代に日本に輸入され、葛飾北斎などの浮世絵師が本書を題材にした作品を数多く描いており、また、戯作家・曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』にも、本書の影響が見られます。

国際交流員が紹介する
「一、二、三楽しい中国文化」
四大名作③

500年前に書かれた英雄伝：『水滸伝』

②

これまで紹介した中国の四大名作は全て有名ですが、『水滸伝』は、もっとも読者が少ない名作だと思います。（『西遊記』も、ドラマやアニメが有名すぎるため、実際の本を読んだことがある人は、非常に少ないと思います。）「英雄伝」として、『水滸伝』は色んなキャラを描いており、内容が豊富な名作です。梁山泊の豪傑はみんな違う性格、格好、武器を扱っているため、『水滸伝』は中国初の「武侠小説」（武術を使うキャラが冒険をする物語の総称）と言われています。現在、中国の小学校では、『水滸伝』中のひとつのお話『武松打虎』（武松が酔っ払った時人食い虎を退治した話）を勉強します。